

製造業安全対策官民協議会における取組

製造現場での環境変化

【現場対応力の低下】

●合理化、リストラ、世代交代により、ベテランが不足。トラブル経験が少ない若手職員の割合が増加。また、女性、非正規、派遣、企業合併等の増加により、労働者の属性が多様化。

【アウトソーシングの進展】

●経営効率化のための業務アウトソーシングが進み、製造現場では協力会社が増加。また、入札による協力会社の選定が浸透し、その製造現場に十分習熟していない企業が協力企業になることも増加。

【生産自動化、電子化】

●生産設備の自動化やシステム化が進行し、設備の設計思想や構造等を十分に理解した職員が減少。全体像を把握できず、異常時等変化への対応が困難。

【設備経年劣化の進行】

●石油コンビナート等の装置産業における主要設備が経年劣化。設備の腐食による墜落災害等が発生。

【社会環境の変化】

●少子化や社会環境の変化による怪我等の体験や集団活動の経験の減少
●学校教育における実験や現場体験等の減少

対応の方向性

【官民による認識の共有・情報発信】

✓産業安全は、マネジメントと現場での問題、人的要因と設備要因、企業の安全文化、社会環境や学校教育などの背後要因が複雑に絡んでおり、官民で全体像について、認識を共有すべきではないか。
✓産業安全は単なる安全対策にとどまらず、経済効果を生み、社会的評価にもつながるものであることを、わかりやすく整理できないか。

【経営層の積極的な関与】

✓安全を企業経営のトッププライオリティとして明確に位置づけることをはじめ、安全経営、安全文化の確立に向けて、経営層に期待される具体的な役割・行動を明らかにしてはどうか。
✓経営判断が必要な安全投資の実施のため、先駆的な企業の取組が参考になるのではないか。

【現場対応力・教育の強化】

✓安全管理担当者の業務負荷が増大し、職場巡視の頻度や作業者との意思疎通が低下しているのではないか。
✓協力会社に対する安全管理の指導・支援を強化すべきではないか。（管理職社員の再教育機会の付与、若手作業員への現場の危険性感度の向上など）
✓個社では資源が限られる中で、企業の枠を超えた、体系的な安全教育プログラムを構築・活用すべきではないか。
✓リスクアセスメント活動や労働安全衛生マネジメントシステムの運用レベルは事業所ごと、企業ごとにばらつきがあり、先駆的な取組事例が参考になるのではないか。

【設備面対策の強化】

✓教育等のソフト面の対策と同時に、設備面の対策を強化すべきではないか。
✓その際、ヒューマンエラー防止対策等に限定せず、エラーがあっても事故が起こらない工夫（機械の本質安全、機能安全）を進めるべきではないか。
✓省人化の流れの中で、IoTを活用した安全対策も検討すべきではないか。

製造業安全対策官民協議会における取組案のたたき台

- 製造業における安全対策の更なる強化を図るため、経営層の参画の下、業種の垣根を越え、現下の安全に関わる事業環境の変化に対する認識を分析、共有
- 既存の取組の改善策及び新たに必要となる取組を検討し、企業における現場への普及を推進

取組の具体例（たたき台）

①認識の共有、情報発信

- 議論の出発点として、共通指標を用い、個社ごとに自社の総合的な安全力のレベル、強み・弱みを正しく理解。
- 産業安全とその背後要因に関し、自社の実態も踏まえた認識の共有。
- 業界内又は業種横断的なベストプラクティスの共有。
- 産業安全の経済的効果と社会的評価の見える化。

②経営層の積極的な関与

- 経営層に期待される役割と具体的な対応の明確化
- 経営判断が必要な安全投資の促進策
- 経営層による、業界内又は業種横断的な安全懇談会の開催

③現場力、教育、リスクアセスメント等

- 協力会社も含めた体系的な安全教育プログラムの策定。
- 産業安全専門家の育成（「産業安全塾」）。安全担当者の地位向上の方策。
- リスクアセスメント、労働安全衛生マネジメントシステムの優良事例の共有
- 業種横断的な表彰制度の創設 等

④設備面対策の強化

- ヒューマンエラーがあっても事故が起こらない取組（機械の本質安全、機能安全）の推進
- IoTを活用した先駆的事例の共有

⑤全国産業安全衛生大会における活動結果の発表及び討議。次年度の協議会の活動への反映。